

3. 大熊町 帰還に向けての復興事業視察と職員との意見交換

松下 眞

◇訪問日時：令和4年12月9日（金）16：30～

◇対応者：大熊町企画調整課 幾橋課長

他に鈴木氏、石田氏、菅原氏

ゼロカーボン推進課 佐藤氏

◇K-TEC：メンバー10人（松下 撮影写真）

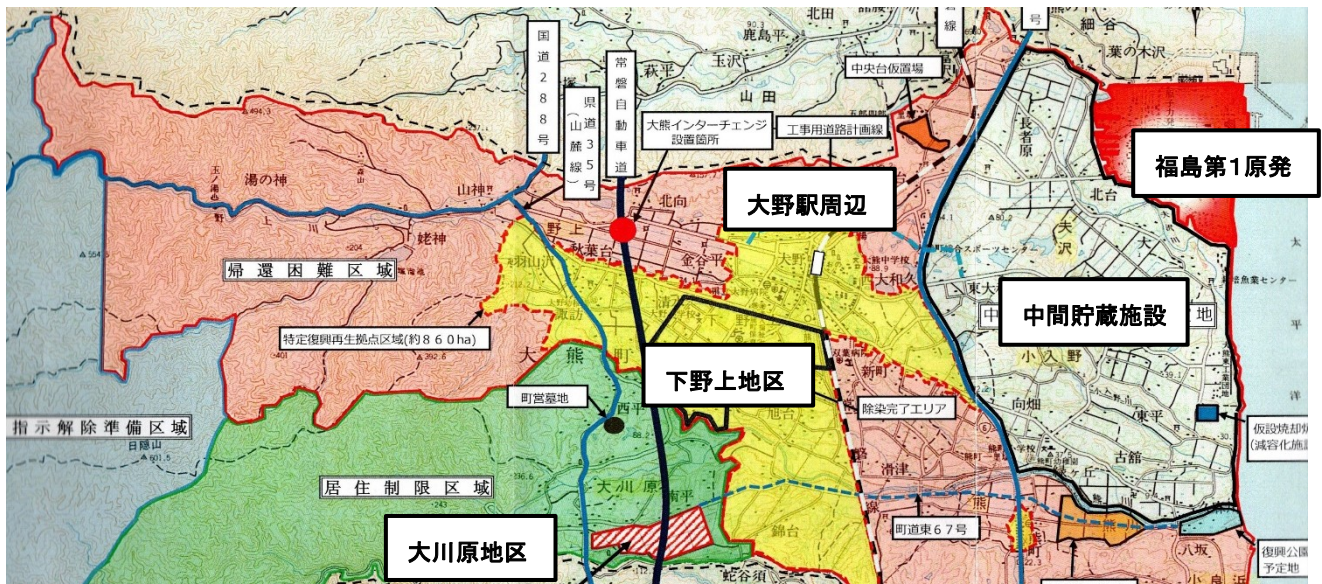


1. 東日本大震災から現在に至る状況

- 被災時の人口は11,500人であったが福島原発1号機・3号機が水素爆発し、全町避難になった。大熊町はほぼ居住制限区域・帰還困難区域となった。
- 2012年12月10日に一時帰宅が可能になり、2019年4月に一部が帰還準備区域となり避難指示が解除され、2022年6月30日に避難指示が解除され帰還が始まった。
- 現在人口264人、廃炉関係者も居住しており（住民登録なしていない人が多い）人口は約1,000人程度と思われる。

2. 復興計画の状況

- 復興構想（H23.10）・第1次復興計画（H24.9）・復興まちづくりビジョン（H26.3）
- 第2次復興計画（H27.3）
 - 今後10年程度の計画（～H37.9）⇒帰町できる環境づくり
大川原地区の復興：町役場を中心に商業・住宅地区（インフラ整備）
 - 避難先での安定した生活（生活再建支援）
- 特定復興再生拠点区域復興再生計画（H29.11）
 - 大野駅周辺（産業交流・居住ゾーン）⇒2022年12月現在、東側住宅は入居、西側は宅地造成中。
 - 下野上地区（産業・交流、居住・営農ゾーン）⇒2022年12月から引き渡し



3. 町内視察の状況

① 大野駅周辺地区

- 大熊町の鈴木氏に大野駅コンコース上から東側・西側の開発について説明を受けた。東側は主に住宅地、西側は産業交流ゾーンで宅地造成がおこなわれている。下記に産業交流ゾーンの完成予想図を示す。



② 大熊インキュベーションセンター (OIC)。

- 2022年7月に旧大野小学校を改装して開所された。主にグリーンテック領域の研究開発に関するオフィスを提供し、関係者間・地元民との交流、産業拠点との連携、人材の定着を目的としている。

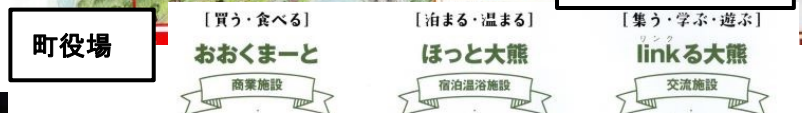
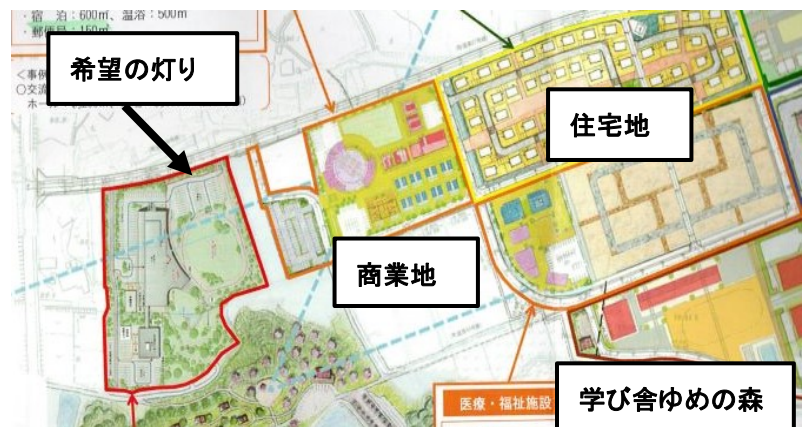


③ 大川原地区

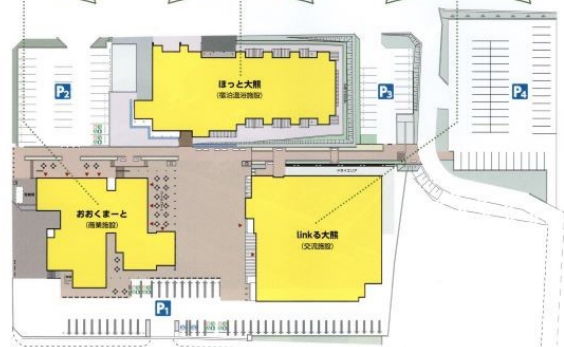
- 大熊町の復興にあたり、最初に造成が手掛けられた。現在、町役場が業務を開始し、付近には商業施設 (おおくまーと)・住宅地が完成している。12月9日の夕食は、このゾーンの「和食さかい」でとった。



1.17 希望の灯り分灯碑



おおくまーとの商店街



4. 町役場での復興状況ヒヤリング

① 参加者（大熊町 5 名）

幾橋企画調整課長、ほか 4 名（冒頭参照）

② 時間・場所 17 時 30 分～18 時 30 分、2 F 会議室

③ 質疑応答の内容

Q1.ゼロカーボン掲げている目的は何か？

⇒小水力・太陽光などで資金と電力を町内で循環させるため。

Q2. 現在の在住人口は何人か？

⇒2022 年 6 月に帰町が始まっているが、旧町民は推定 300 人。

⇒10 年以上無人の家は空巣やイノシシに荒らされて住めない。

幾橋課長宅も同様で、2 時間かけて会津若松から通勤とのこと。

Q3. 住民の帰還が少ない理由は？

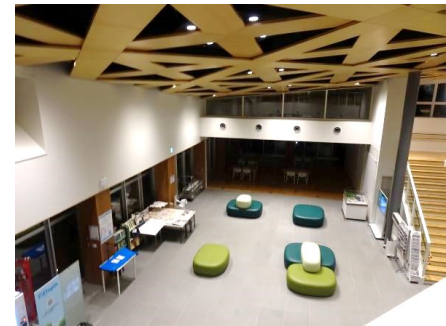
⇒避難していると医療費が無償になる。逆に町内にあった県立大野病院は再開しておらず、医療サービスが得られないのも不安材料。（福島民報 2 月 14 日 WEB 版によると、後継病院について大熊町・双葉郡・福島医大などの関係者が 2023 年 9 月に基本構想を策定する方向で検討中とのこと。）

Q4. 全町避難となり、避難先に学校も開設していた状況は？

⇒会津若松市に廃校跡を利用して小中学校を開設した。一時あふれていたが、現在 20 名くらい。ほとんど地元の学校に通学している。（これも帰還しにくい理由になっている。）

Q5. 教育に力を入れる理由は？

⇒廃炉関係者 900 人が町内におり、高等教育機関があれば将来の人口定着も期待できるのだが。



5. 視察およびヒヤリングの感想(所感)

- ・ 2018 年の訪問時は、一時帰宅だけが認められており、大川原地区の基盤整備が進められていた。
- ・ 2022 年 6 月 30 日ようやく帰町が始まったが、住民は廃炉関係者も含めて 1000 人程度になっている。これから復興事業が本格的に進められるものと思われる。
- ・ 全町避難の期間中、会津若松市といわき市に出張所がおかれ行政サービスが、提供されていた。今後、住民の帰還数の見通し、OIC を中心に新規人口定着の見通し等、注目していく必要がある。
- ・ 国道 6 号線の東側は中間貯蔵施設であり、30 年経過後、施設はどのようなになっているか、跡地利用は行われているか注目していく必要がある。
- ・ 町役場は町域の南端に位置しており、JR 大野駅からは離れて不便な場所にある。車社会とはいえ気になった。
- ・ なお、町役場前に設置された「希望の灯り」は 2021 年 3 月に幾橋課長が神戸から持ち帰り、3 月 11 日に点灯された。